

# 目指すべき日本の幸福の姿に関する一私見

---

フロンティア分科会 幸福のフロンティア部会

委員 永田 良一

2012年3月1日@内閣府

## どこの国の話？ ⇒外国人が見た幕末の日本

---

◆天下を通じても**っとも教育の進んだ国民**。読み書きできない人や自国の法律を知らない人はいない。  
ゴロブリン(露/1776-1831)

◆支配者の富は、真に貧弱で貧しい農民と変わらない。にもかかわらず、**悲惨な人がいない**。  
ハリス(米/1804-1878)、オールコック(米/1809-1897)

◆法が身分により左右されず、一方的な意図・権力によることなく**確実に遂行**されている国は他にない。  
ツンベルク(スウェーデン/1743-1828)

◆こんなに**幸せそうな顔**をした農民は世界中にいない。

ハリス、オールコック、カッテンディーケ(蘭/1816-1866)

## 150年前(5世代前);幕末の日本の話①

---

- 厳然たる身分制度のもと、飢饉や年貢の収奪による暴動(一揆)もあった。
- 鎖国政策により日本独自の文化醸成を得られた半面、世界の潮流から取り残されてしまった。
- 理想国家でも地上の楽園でもなく、一時的滞在の外国人の幕末の日本に対する評価は、物事の一面しか見えていない。

## 150年前(5世代前);幕末の日本の話②

---

しかし、150年ほど前の日本では、

- ◆自然の恵みを享受し、自然の脅威を甘受する精神性
- ◆有機農業で国民3000万人が自給自足
- ◆村掟、町式目によるボランティア的な民衆自治
- ◆炭・菜種油などの再生エネルギーを使用

エコ・スローライフ・リターナブルで文化的な社会が構築されていた。

## 世界一幸福な国バーチ王国の実体は？

---

- 先祖からの引き継いだ智慧を家族の慣習として、継代していく。
  - 生活の智慧；育児、料理、織物、病気の看病、冬場の対処。
  - 子供を育てたことのない若い女性も不安に感じない。（安心して出産）
  - 3世代、4世代の大家族で、皆が子育てを支援する。（自分の事）
  - 病気にかかったら家族で看病してもらえる。（すぐに病院に行かない）
  - 年老いたら、家族が皆で面倒を見る。（介護は家族で対応）
  - そこには、長い歴史の中で培われて人間の智慧が詰まっている。

# 日本は、近代化によって何を失った？

---

経済発展により収入が増大すると国民は物品を購入して、それにより、消費が増大し、経済はさらに繁栄してきた。

しかし、日本は、近代化の過程で経済成長を優先した故に、文化・伝統・精神など、日本人として大事にすべきものの多くを失ってしまった。

また、同時に資源枯渇と環境破壊の原因となった。

→どこかでバランスをとるために、コントロールする必要がある。

# 理想を実現する上で注目すべき現実

---

- ・ 少子高齢化の加速と孤独死の増加
- ・ 深刻化する無縁社会と限界集落
- ・ 結婚できない若者の増加
- ・ 就職できない大卒者の増加
- ・ 産業の国際競争力の低下
- ・ 隣国の経済力増大による脅威

# 今後の日本の話①

---

温故知新



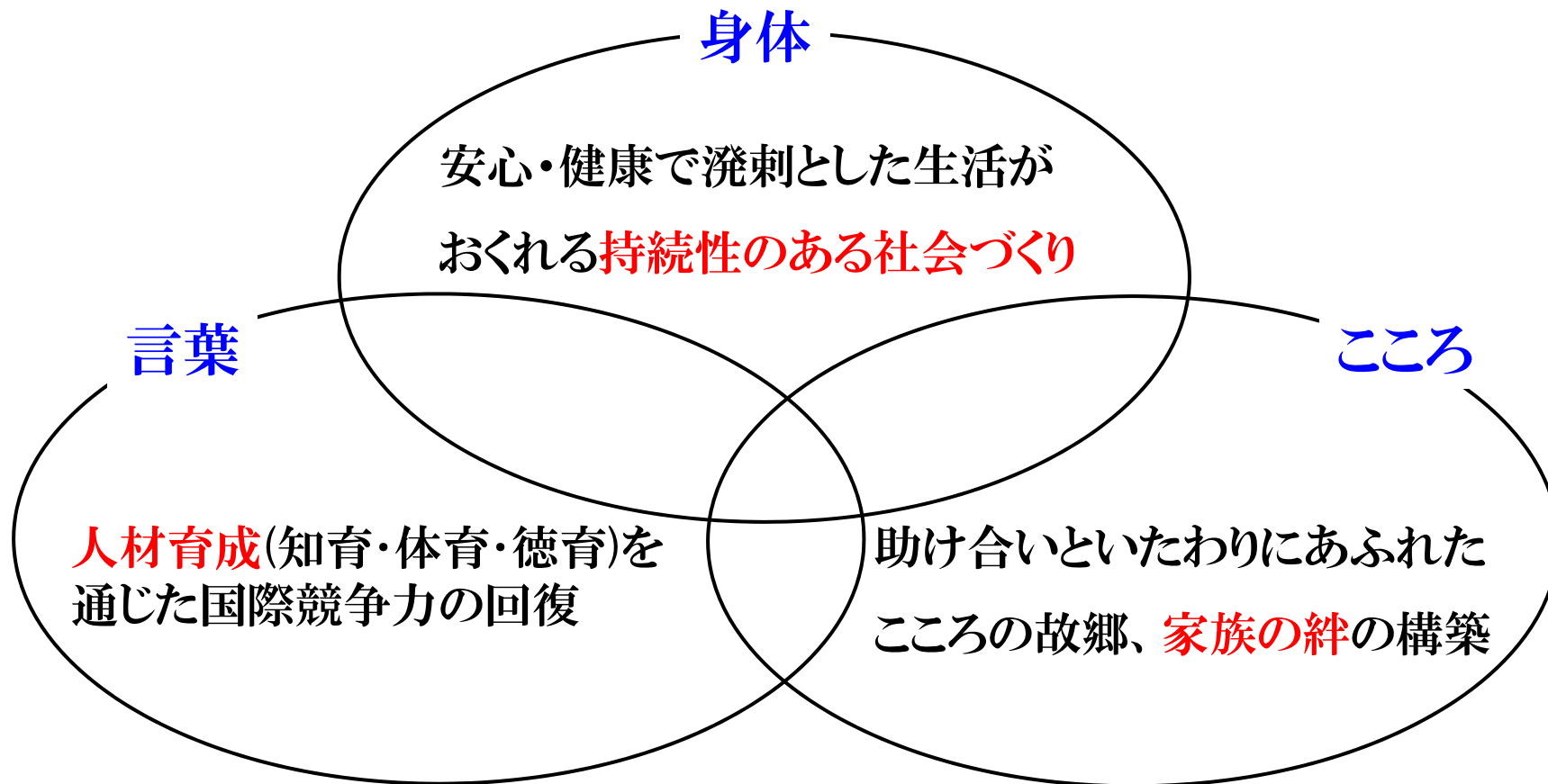
- ◆ 「ないものねだり」をせずに、「あるもの」を磨き活かしていく方向性をとる。
- 

イヴェーティヴな日本再生



## 今後の日本の話②

◆「ないものねだり」をせずに、「あるもの」を磨き、活かしていく方向性とは;



# 現在の延長線上にある2050年の日本の幸福の姿①

幸福を5つの側面で捉え、それぞれの関連項目が充足された状態を目指す

## 1. 仕事の幸福

⇒働き甲斐、生き甲斐、情熱、貢献と実績に見合った処遇・賞賛、自己成長、革新、こだわり・職人技、一致団結・一致協力、経験と年齢への尊敬、女性の社会進出、障害者の社会進出、公正な競争、自由時間など

## 2. 人間関係の幸福

⇒世代の連携（家族・親族、大家族）、友人・知人、相互信頼、人脈・ネットワーク、コミュニケーション、生涯学習、対話、平和・安心、団らん・癒し、各種差別の解消、スローライフなど

## 現在の延長線上にある2050年の日本の幸福の姿②

### 3. 経済的幸福

⇒ 各種格差の解消、**貧困のない社会**、知足、清貧の思想、物ではなく経験（思い出）への金銭消費＝精神的充足度の向上、**再生可能エネルギー**、資源リサイクル、サステナビリティなど

### 4. 身体的幸福

⇒ 健康、長寿、快食快眠、運動、医療の充実、医療技術の進歩、**食の安全**、ストレスフリー、**予防医学**、こころのケア、公衆衛生、環境（大気・土壌・水質・生物多様性）、バリアフリーなど

### 5. ミニターの幸福

⇒ 自然環境保全、景観保護、ボランティア参画、**地域活性化**、住宅事情、社会貢献、大災害への備え、向こう三軒両隣、互助精神、郷土愛・愛国心、**伝統文化の伝承**、里山暮らしなど

# 目指すべき2050年の日本の幸福の姿①

---

不安・不満・不公正の少ない社会 → 幸福な社会を目指す

## 1. 仕事の幸福

⇒意欲と技量があれば、生涯現役でいられる社会

## 2. 人間関係の幸福

⇒大きな家族を中心とした地域社会の構築

## 3. 経済的幸福

⇒自分のためだけでなく、他人（社会）のための金銭消費性向

## 4. 身体的幸福

⇒天寿を全うできる医療環境整備（三大疾病による死亡減）

## 5. コミュニティの幸福

⇒安心して楽しく住める地域、犯罪や事故の少ない社会の構築

## 目指すべき2050年の日本の幸福の姿②

---

将来像を一言で表現すると…

1. 笑顔と安らぎと活力のある国
2. 世界から尊敬される国
3. 優しい時間が永遠に流れるアジアの桃源郷

# 戦略策定

---

戦略1. 社会的弱者保護システムを根本的に改革するための  
拡大家族ネットワークシステム戦略を策定する。

→ 笑顔と安らぎと活力のある国

戦略2. 国際的な視野を持ち、多様な価値観の共存を受容・包摂  
できる社会性を確立するための徳育強化戦略を策定する。

→ 世界から尊敬される国

戦略3. 地方の活性化を進め、暮らしやすい地域を作るために  
特区を設けてサステナブルエリア戦略を策定する。

→ 優しい時間が永遠に流れるアジアの桃源郷

## 戦略1. 拡大家族ネットワークシステム戦略 ; 背景と説明

---

日本は、少子高齢化や人口減少、そして経済環境の大きな変化によって、社会の基本的構造が崩壊しつつある。限界集落や無縁社会は、それを反映した実例。政府による社会保障制度は、人為的に作った制度で持続性と言う観点からは無理がある。

最も自然な形は、家族を中心とした社会保障システムである。これを**拡大家族ネットワークシステム**(Extended Family Network System; EFNS)と言う。これが実現すると、地域の弱者を地域全体で面倒をみる仕組みができあがり、孤独死が起こりえない社会が実現する。

EFNSは、ブータン王国GNHのコアである。日本も昔は、家、を中心とした制度であった。しかし、現代日本の家族は、2世代の核家族である。これに、両親、祖父母、叔父、叔母、その他、家族・親戚をメンバーとして加えたコミュニティーを構築していく。この**EFNSは、大きければ大きいほど、家族の絆は強くなり、それは長く維持できる。**

## 戦略1. 拡大家族ネットワークシステム戦略 ; 具体的戦術

---

EFNSの実現には、個人の欲求のコントロールが重要。個人の豊かさは、この拡大家族の絆によって見出す。個人の欲だけでなく、家族や地域の仲間、国全体のことを考える大きな欲を持てるような教育を幼少時から徳育として行うことが重要となる。

企業は、ITを駆使した遠距離交信システムを確立して、社員が自宅や外出先で仕事ができる環境を整備する。政府はこれを支援する。家族と過ごす時間を増やすことができると、絆をより強くすることができる。それは、同時に、家族の強さと国家の強さを意味する。

これらの実現には、労基法の整備、税法の整備、企業の理解と協力、企業への奨励金など、重点整備として必要。なお、家督相続という観点で税法上の特典をつけると長期的には経済効果が期待できると考える。



## 戦略2. 徳育強化戦略 ; 背景と説明

---

自分さえ良ければ他人のことは構わない。とにかく、自己主張（自分を表現）することが大切。これが、今の風潮。自律主体という観点からは、自我の確立は大事であるが、**社会に役立つ自分でないと、社会に必要とされない**。それは、社会性が失われつつあることを意味する。

一方で、差別や格差をなくそうと、幼稚園の運動会で手をつないでゴールするという光景が現実にある。これもまた勘違いした行き過ぎである。

今や海外に留学したいと思う日本人の学生が激減し、国際社会でグローバルに展開する企業・商社においても、若手社員の海外赴任の希望者が少なくなってきた。**国際化に自らを投じようとする人材が不足している**。

このような実体を直視すると、**今の日本における教育は、すでに陳腐化したものとなっている**。言い換えると、時代に沿ったものではなく緊急的に改革する必要性を強く感じる。

## 戦略2. 徳育強化戦略 ; 具体的戦術

---

保育園・幼稚園の一体化を加速し、こども園の財政基盤を強化するとともに、共働きの核家族(特にシングルマザー)の幼児に対する保護を手厚くする。同時に、**幼児への国際教育、徳育を強化し、愛国心をもって国際社会で活躍できる人材を輩出できる学校法人を選別して助成する。**

学習塾や過酷な受験戦争から脱却すべく大学受験システムを根本的に改革し、**共通1次試験を再検討し、大学の自由裁量を広く認める。**地域に根ざした大学作りを支援し、世界から尊敬される日本人として、国際化に対応できる人材育成を重点目標とする。

国際化に対応できるスキルを持つ教員養成のあり方を導入し、現教員に対しても新たな指導要領を導入して、研修を重ねつつ意識改革をする。また、一人の教員に父兄からの過度な負担がかからないように**担任制を廃し、組織で対応できる体制を構築する。**

### 戦略3. サステナブルエリア戦略 ; 背景と説明

---

日本の地方の街には、若者が住む魅力がない。まともな仕事もなく、遊ぶところもないから、住みたいと思えない。だから、若者は都会志向となり、過疎が起こってくる。これが限界集落を生む。

若者にとって、必ずしも都会が良いわけでもない。都会では物価が高く、十分な報酬も手に入らない。正規雇用も難しい。故に、結婚はなかなかできないから、子供も増えない。でも、**都会に憧れる**。これらが少子高齢化や無縁社会の原因となっている。

一方、地方には、豊かな自然があり、自分を理解して、協力してくれる家族や親戚がいる。家には、長い歴史の中で継承してきた生活の智慧が詰まっている。友人や住み慣れた環境がある。

地方の街に**文化的に整備されて楽しみがあり、若者が興味を持って集う場所、持続的で安定した生活ができる環境、企業の視点でも事業所を置くメリットがある条件、などを整えると、若者は地方に残るのではないだろうか。**

### 戦略3. サステナブルエリア戦略 ; 具体的戦術

---

ある基準を設定して、国内10箇所ほどの地方の街を選び、若者が住みつく街となり得るエリア（サステナブルエリア）を特区として選定する。そこに資本を集中投下して、小さな理想的な街をつくる。政府と地方行政と企業、そして地元の組織との協力が必要。この小さな桃源郷がたくさんできてくると日本はアジアの桃源郷となり得る。小さく生んで大きく育てる。

町内会、公民館、地域の協力を強める組織を見直す。薩摩の郷中教育（ごじゅうきょういく；先輩が後輩の面倒をみる、独特の若者だけの組織）を参考に、子供や青年中心の社会において道徳心、愛国心、正義心などを培う。江戸時代末期から明治・大正時代にかけて薩摩が活躍できたのは、この郷中教育があったからである。

サステナブルエリアの生活環境の整備を政策的に推進する。都会から地方に移る家族の支援や文化的な面からの地方活性化を行う。協力企業には、税制面での優遇、労基法での特例、雇用促進支援、教育研修補助など、支援する。